

## 平成26年度 大阪市社会教育委員会議 第3回小委員会 議事録

1. 日 時 平成26年10月28日(火) 午前10時から12時
2. 場 所 大阪市役所 地下1階第10共通会議室
3. 出席者  
(委員)  
岩槻委員・笹川委員・立田委員・久委員・弘本委員・宮田委員  
(教育委員会事務局)  
森本生涯学習部長、濱崎生涯学習担当課長、藏田社会教育施設担当課長、植木文化財保護担当課長、松村生涯学習担当課長代理
4. 議事概要
  - (1) 開会
  - (2) あいさつ
  - (3) 出席委員紹介
  - (4) 議案
    - ・ 意見具申について
    - ・ 区長会との意見交換会について
  - (5) その他
5. 主な意見等について  
(意見具申について)
  - ・ 生涯学習の中に、社会教育、家庭教育が含まれるという部分をもう少し強調した方がいい。
  - ・ 新たな創造を育んでいく総合的な力としての市民力を強調していく必要がある。
  - ・ 市民力の育成の部分で、様々な社会的課題について、行政だけで解決するのではなく、市民がともに参加して課題解決にあたるという視点を強調するために、「参加」という言葉を入れておく必要があるのではないか。
  - ・ 学校、家庭への支援と、学習者の社会参加を目標として、それを実現するために市民力が必要であり、その市民力をつけるための生涯学習であるというメッセージがみえるように意見具申を構成するといいいのではないか。
  - ・ 基本的な理念についてはきっちりと書いておかないといけない。まず、この間の時代が大きく変動している。社会が大きく変動、転換する時期だからこそ、過去の知識や経験から導き出すのではなく、新たな情報をその都度受け取りながら、社会を作っていくということが必要になってくる。ネットワーク型社会へどうシフトしていくか、市民がそこにどのようにコミットするかが重要になってくる。世の中全体が統制型ではなく、みんながかかわって動かしていく社会に変わっていく。その辺りをしっかり前半部分でおさえてもらえば、後半部分についても変わってくる。

- この10年間で社会が変動する中で、これまでの施策自体が時代遅れになっているところが見えてこない、既存のものをいくらつついていても仕方がない。最初に社会全体がどうかかわっているのかを記述、その次に、教育委員会として、どのように課題をとらえているのか、どうしていきたいのかについて記述、その上で、だからこうしていこうという展開で構成していく。
- ネットワーク型社会への変化に伴う対応についての記述は充実させていく必要があると思う。これから、人とのつながりが特に重要になってくる。震災以降、人との絆がやっぱり社会にとって必要だということが再認識されている。
- 「まなぶ」ということは、すべてにおける原点。学びの重要性を強調していけば、生涯学習の役割が際立つ。
- 知の還流（まなびのネットワークづくり）のところで、社会教育施設の活用についても書いておく必要があるのではないか。文化施設は、市と市民をつなぐもの、そういった役割を持っているのだということを明記しておく必要がある。施設が資源のストックとしてあって、それを活用していくことが地域の活性化につながるというところを書いておく必要がある。
- 市民と市民をつないでいくための人材が必要だと思うが、その辺りがあまり強調されていないように思う。資源を結び合わせていって、カウンセリングしていく人が必要となってくる。それに関しては、社会的包摂の部分についても言える。大阪市では、市民ボランティアとして生涯学習推進員がそのような役割を担ってきたと思うし、職員としては、社会教育主事がこれから、コーディネーター的な動きをしていくことが必要。
- 新たな公共ということ行政がまだきっちり認識できていない。自分たちのスタンスは変えないで、お金だけを交付して、これまで行政がやってきた部分を市民に託していただくだけでは立ちいかない。推進するのではなく、支援していくスタンスに行政側がかかわっていかないといけない。
- ニアイズベターで、問題解決にあたるというのはいいが、区と市のそれぞれがやることと、双方の連携が重要だが、その部分が読み取りにくい。現場の声を拾って大きな枠組みに拾っていくために双方のやりとりが重要なので、その部分についての明記が必要。
- 評価という視点を持つとエビデンスがみえてくる。事業をやりっぱなしにしないで、エビデンスのあるものを蓄積していくことが必要。
- ネットワーク型社会の到来に対応するために、これまでの上からの管理監督から、市民の自律による協働が必要であることはわかっているが、それを動かしていくシステムがまだまだ弱い。行政がどう支援し、どう評価していくのかについて、考えていく必要がある。
- 評価は、結果をたたくためにやるのではないという視点が必要。失敗から成功を作

りだすためのもの。成長、発展のための評価だととらえる必要がある。うまくいった例を意見具申に入れてもらおうと、生涯学習の発展につながっていく。

- 評価者の適切な評価の姿勢も必要。
- 大阪市の専門職員としての社会教育主事については、どこかに書いておく方がいいのではないか。つなぐプロとしての社会教育主事を区役所にどう配置し、どう活用していくかの記述が必要。